

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【植水中学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策	
知識・技能	基本的な四則計算についてはある程度定着したが、方程式や代入の計算に課題が残った。小学校から繰り返しやってきた四則計算と違い、比較的新しく学習する文字式や等式の計算の重点的な復習が課題となる。他教科においても、国語の漢字や理科、社会において繰り返し学習する機会をつくってきたい。	
思考・判断・表現	今年度の授業の中でも、話し合いや教え合いの場面を作ってきたが、知識・技能的なことへの理解や習得が話の中心となっていた。今後は、学習したことを具体的な場面や事柄に関連づけて考察する力を、国語の「読むこと」と繋げて、改善していきたい。理科では、1つ1つの現象を単発で終わらせず、一連の流れで考察する力を身に付けさせたい。次年度は、資料やグラフを活用して推測したり、意見を述べたりする活動を授業の中で増やしていく。また、読む機会を充実させていく。	

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題>数学的な基本的、基礎的な知識・技能の習得が二極化している。また、さいたま市学習状況調査の2、3年生の結果で、数と式の単元が市の平均を3ポイント以上下回っている。 <指導上の課題>学級全体で、同じ学習課題を設定しにくい。	⇒ スタディサプリを活用し、基本的な計算等の反復・習熟に取り組む。その際、達成度を記録し、各自が達成状況や苦手な単元を振り返るようにする【毎週水曜日朝の会後に実施】。少人数指導を実施し、習熟度にあった課題に取り組めるようにする【通年】
思考・判断・表現	<学習上の課題>数式やグラフから読み取ったり、数式で表現したりすることが苦手であり、特に関数の単元が、全学年ともに市の平均を3ポイント下回っている。 <指導上の課題>基礎的、基本的なことへの習得に重きを置いているため、思考したり、表現したりする時間を十分に確保できていない。	⇒ 数学において、3年生で少人数指導を実施し、基礎・基本についてじっくり考えるコースと応用的な内容について深めるコースに分けて、習熟度にあった内容の授業を選べるようにする【通年】。2年生では、反転学習によって思考する時間を多く確保し、個人で考えたり、友達と教え合ったりする機会を作る【毎時間設定】。

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	A	週1回の朝のスタディサプリは毎週実施することができた。基本的な計算のみならず、関数、図形の基本的な内容を繰り返し復習し、さいたま市の学習状況調査では、中2数学のすべての領域、中1の「図形」と「データの活用」で市平均を3ポイント以上上回ることができた。
思考・判断・表現	B	3年生では、1年間を通してコースを分けて授業を行った。じっくりコースでは、基本的な問題を多く時、学年末には計算を問題を中心に繰り返し復習した。パリパリコースでは、教科書レベルの問題から入試レベルの問題まで取り組んだことで、理解を深められた。2年生では、年間を通して予習中心にしたことで、授業中に多くの問題に取り組むことができた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」において、特に短歌などの「表現の技法」について課題が見られた。解答類型を見ていると、「夕暮れ」が体言と区別できなかったり、「庭に月待つ」が直喩であると答えた生徒が多かった。例えや文の成分についての理解が不十分であると考えられる。 数学の「数と式」において、四則等の計算は理解しているが、文字を使って表したり、文字で等式を変形したり、規則性を説明したりするなど、文字を使った数式の処理や説明に課題が見られる。説明する際に、式を用いて簡単に説明できるよさを十分に実感させたい。	
思考・判断・表現	国語の話すこと、聞くこと、書くことについて全国平均を大きく上回り、市内でも高い理解度がある反面、読むことについて課題が見られた。読むことについて、「主張と例示」の関係や短歌の描写をもとに内容を捉えることは全国平均並みに理解しているが、内容を解釈したり要約したりする際に課題があり、普段から本を精読したり、新聞を読んで理解しやすくなる機会が不足していると考えられる。 数学において、データやグラフを観察し読み取ったり、主張したりすることが苦手である。グラフやデータをかくだけで終わらず、協働的に意見を交換したり、話し合ったりする活動を重視したい。	

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	数学では、基本的な計算を反復する時間を作ったことで、「数と式」の単元で2年生では、5問中4問で市の平均を上回った。「関数」では、関数の関係や式がもつ意味の理解が不十分であり、単なる式の形の暗記や数値の処理の理解にとどまっているようである。国語では、漢字を文脈に即して使うことに課題が見られた。理科では、「地球に関すること」で高い未回答率の問題が見られ、実物や写真を効果的に活用し、改善をはかりたい。	
思考・判断・表現	数学「データの活用」の改善が見られた。最頻値やヒストグラムなど、情報の1つ1つの解釈はできているようであるが、それらを組み合わせて考えたり、事象に即して解釈したりすることに課題がある。国語では全国学力・学習状況調査から引き続き読むことに課題が見られた。特に、文章の構造を捉えたり、目的や場面に合わせて解釈することに課題が見られる。関連して、読書をするのが好きな生徒が市平均より高いが、読んだ冊数は少ない傾向がある。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	毎週水曜日の朝にスタディサプリで数学の復習を行い、問題の正答率をプリントに記録するまでの一連の流れを形成できた。 中3数学で少人数指導を実施し、習熟度に合わせて課題に取り組める環境ができています。	変更なし
思考・判断・表現	B	中3数学において、基本コースと応用コースを開設し、生徒自らが自身の習熟度や目標に合わせてコースを選び、学習に取り組んでいる。 中2では、予習用のファイルをTeamsにアップロードし、授業中は協働的に問題を解決しながら進められている。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)